



「申命記30：14 まことに、みことばは、あなたのすぐ近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心において、あなたはこれを行うことができる。」

行動したいのにできない

「『しなくちゃいけない』『いつかは言わなくちゃいけない』『言ってあげたほうがいい』』と思っはいるけども、なかなか行動に移すことができない」ということが、みなさんの生活の中でそれぞれあつたりすると思います。例えば、職場の会議の中で発言する機会がある時に、「言ってあげた方がいい」とわかつてはいても、「もしこんなこと言つて、誰も受け入れてくれなかつたらどうしよう」と思つと、「余計なことは言わないでおこう」と発言を控えてしまつたりすることがあるかもしれません。仕事で失敗した時、そのことを上司に報告しようとする時、「言わないといけないけど、怒られるのがわかつているので、できれば何事もなく済ませられないだろうか」と思つて、言わないで済ませていることもあるかもしれません。また、教会の中で、自分から交わりの輪の中に入つていくことや、自分から兄弟姉妹に話しかけたりして関わりを持つとつすることについて、それがみこころで

と思つてしまつます。しかし、一方では、「これからもずっと、こんな態度を続けていてもいけないよなあ。」といった思いも湧いてきます。それで、「いつかは言おう」「自分から切り出してみよう」と心の中で決意します。しかし、いざ相手を目の前にすると、その切り出す最初の一言が言えなくなつてしまつます。自分が傷つきたくない、嫌われたくないと思つるので、一歩踏み出せなくなつてしまつます。

信仰によって一歩踏み出す時、主は助けてくださる

私たちは、自分の感情に左右されないで、主のことばに素直に服従する信仰を持たなくてはなりません。「『あなたの敵を愛しなさい』と主が言われるので、私はあなたの言われることに従います」と、信仰によって立ち上がる時、「主が私にしてくださつたのと同じようにして、私もすすんでこの人のために傷ついてあげよう、犠牲を払つてあげよう」という思いが与えられ、一歩踏み出すことができるようになります。その時、主は私たちとともに働いて、その信仰を通して相手にその愛が届くようになります。みことばに信頼して一歩踏み出す時、私たちの心に変化が訪れます。心は喜びへと変えられます。

旧約聖書に出てくるハンナは、子どもが与えられない状況の中で、夫のもう一人の妻から嫌がらせを受けて、思い悩んでいました。それは彼女にとって、食事がしたくなくなるほどの苦しみで

あることは十分わかつてはいるけども、それができないと言うことがあるかもしれません。

きっかけを求めている

行動したいのにできないまま先延ばしにしてしまつと、何かのきっかけがないと行動ができなくなつてしまつます。

例えば、家族の間で言い争いになつたりする時に、家の中にそれまであつた穏やかな雰囲気は、一瞬のうちにどこかへ消え去つてしまつ、ギクシャクした気まずい雰囲気になつてしまつます。一度その場がギクシャクしてしまつと、今度はそれを打ち破つて、また以前のように明るく振る舞うことが自然にはできなくなり、とても勇気のいる行動となつてしまつます。緊張した雰囲気が長引けば長引くほど、その状況を打ち破るのには大きなエネルギーが必要になります。「急に明るく振る舞い始めたら、周りから『何があつたの?』と思われてしまつだろう」と感じると、ますます自分から態度を改めることに大きな抵抗を感じて、一歩踏み出せなくなつてしまつます。そうやって悶々として思い悩んでいると、「相手から切り出してくれないだろうか」とか「何かきっかけがあれば言えるのに」と思つて、周りの人や状況が変わることを期待したりします。みことばによって語られても、すべきことはわかつていても、「こんなギクシャクした状況の中で、そんな急に態度を変えることなんかできるわけじゃないか。」

ありました。その心に募る憂いと苛立ちを、主の前に注ぎ出して祈つていました。その様子を見ていた祭司エリが、「安心して行きなさい。あなたの願いをかなえてくださるよつに。」と彼女に告げます。すると彼女は、祈りが聞かれたことを信仰によって受け取り、立ち上がりました。その時を境に、彼女の表情はもはや以前のようなではなくなり、喜びの表情へと変えられました。彼女の心はいやされ、食事ができるまでに回復しました。現実にはまだ子どもが与えられてはいない状況でしたが、彼女はもう祈りが聞かれたと確信を持つて喜んでいました。

みことばを素直に受け入れる信仰を持つ

ヤコブの手紙には、「心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばはあなたがたのたましいを救うことができます。(ヤコブ1：21)」とありますが、私たちは、聖書に書かれているすべてのみことばを、自分自身に語られていることばとして素直に受け入れましよう。その信仰を持つて立ち上がる時、主のみこころがはっきりとわかるようになり、私たちは主の助けによつてみことばを行うことができるようになります。

(岩下 栄作)